



様々な年齢が出会える異年齢保育

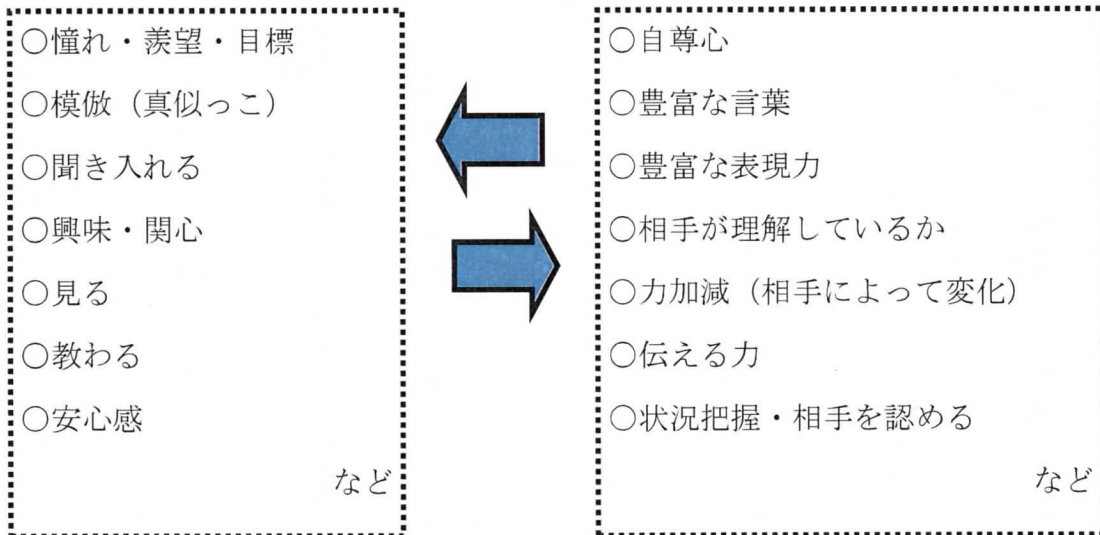
異年齢保育の大切さが見直されております。一昔の保育では、学年別（年齢別）の保育が通常でした。異年齢はイベント的（定期的）に実施されていましたが、現代では「異年齢で生活を共にする」ことの大切さが言われております。詳しく解説していきましょう。



子ども同士で文化を伝える

異年齢の関りを通して、生活や遊びの文化を子ども同士で伝えることができます。その手法は様々で、見て覚え、教えてもらって覚え、聞いて試し、憧れから関わるなど、多岐にわたります。

異年齢はお互いの育ちあい



異年齢の関りは大人では教えられない

異年齢は勉強・学習など、大人が教えるまたは指導することができません。実際に関わって、実体験の中から生まれる感情や情動となります。日々の生活を共にする仲間だからこそ、必要性を感じ、どのようにしたら相手が分かるか、何を言いたいのかを察するなどを自然と覚えていきます。

保育施設では、兄弟姉妹以外の異年齢がいるため、より多くの人と接することができます。保育施設の特徴である、集団の力を活用しながら子ども達を育てるお手伝いを行います！

QRコードからLine@にお友達登録をいただくと、
毎週、子育て情報をお届けします！

